

A-1-1

講演番号：変更不要

## 投稿論文作成について (日本機械学会指定テンプレートファイル利用について)

### Making Research Paper (About the Use of the JSME Specification Template File)

機械 太郎<sup>\*1</sup>, ○正 技術 さくら<sup>\*2</sup>  
機械 二郎<sup>\*1</sup>, 機械 三郎<sup>\*1</sup>, 東京 花子<sup>\*3</sup>  
Taroh KIKAI<sup>\*1</sup>, Sakura GIJYUTSU<sup>\*2</sup>,  
Jiroh KIKAI<sup>\*1</sup>, Saburoh KIKAI<sup>\*1</sup> and Hanako TOKYO<sup>\*3</sup>

発表者には○を記載，発表者は氏名の前に会員資格を記載する．正員：正，学生員：学

<sup>\*1</sup> 日本機械大学 Nihon Kikai University

<sup>\*2</sup> 信濃町大学 Shinanomachi University

<sup>\*3</sup> 機械株式会社 Kikai Corporation

**Key Words** : Keyword1, Keyword2, Keyword3, Keyword4,...(Show three to five keywords.)

IIP2022 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会では，前年同様に以下 2 種類の講演原稿フォーマットを準備した。

- 1) 原稿枚数 1 ページ限定：英文アブストラクト無し講演原稿
- 2) 原稿枚数 2～6 ページ以内：英文アブストラクト付き：従来書式の講演原稿

著者はどちらかを選択し執筆する。このテンプレートは 1) のフォーマットであるので 1 ページを超えないように執筆する。1 ページを超える場合は 2) の別フォーマットになるので注意いただきたい。 文章の区切りには全角の読点「，」(カンマ)と句点「。」(ピリオド)を用いる。カッコも全角入力する。

本文中の文字の書体は，明朝体・Serif 系 (Century, Times New Roman など) を利用する。原則として章にわけの必要はないが，項を設ける場合には，本書式の例のようにゴシック体を使用する。ページ番号は不要である。

執筆後は PDF ファイルに変換し，容量は 1 ファイルあたり 2 MB 以下とする。

#### ●原稿の作成に際して

原稿の冒頭には，和文の表題，英文の表題，著者名，ローマ字著者名，和文とローマ字連絡先所属機関を入れる。発表者に○をする。発表者の前に会員資格を記載する。

#### ●表題及び副題の付け方

原稿の表題は内容を明確に表現するもので，しかも簡潔なものが望まれる。また，必要に応じて副題を付けてもよい。

#### ●表題及び副題キーワードの付け方

キーワードは，論文の内容を代表する重要な用語である。これによって論文の分類，検索が迅速になる。キーワードは，3～5 語句とし，前置詞・冠詞も含めない。

#### ●その他

参考文献の記載法は末尾の通りとする。

図表については，「2～6 ページ書式」の「4. 図及び写真・表の作成に関して」部分を参照のこと。

#### ●注意事項

この 1 ページ書式を選択した場合，各部門が行う若手優秀講演フェロー賞等の選考の対象とならないことがありますのでご注意ください。

## 文 献

- (1) 新宿太郎，渋谷二郎，“論文の書き方”，日本機械学会論文集 A 編，Vol. 52, No. 485 (1987), pp. 111-116.
- (2) Keer, L.M., Knapp, W., and Hocken, R., “Resonance Effects for a Crack Near a Free Surface”, *Transactions of the ASME, Journal of Applied Mechanics*, Vol. 51, No. 1 (1986), pp. 65-69.